

視点1：全教職員で取組を推進するための組織運営

《取組内容》

校内研究会の実施

- ◆ 「確かな学力育成プラン」について、全職員で正しく認識
- ◆ 生徒の実態→育成を目指す資質・能力を全職員で共通理解

教師アンケートの実施

- ◆ 一人ひとりが目標の具現化について、手立てを考える。
- ◆ 様々な視点の共有



研究主題との一本化

- ◆ 目的や場面、状況に応じて、自分の考えをわかりやすく表現する生徒の育成を合言葉に研究を進める。
- ◆ 指導案にも手立てを明記

生徒アンケートの実施

- ◆ 生徒にも目指す姿を共有
- ◆ 一緒に取組を推進する決意表明

- 難しく考えず、まずは皆でやってみよう。
- 生徒を主語にした会話を増やそう。
- 良いことはどんどん共有
- 失敗も変更も取組の成果

《提言》

目指す生徒の姿を明確に。
教師も生徒も一丸となって、
皆で楽しみながら取り組もう。

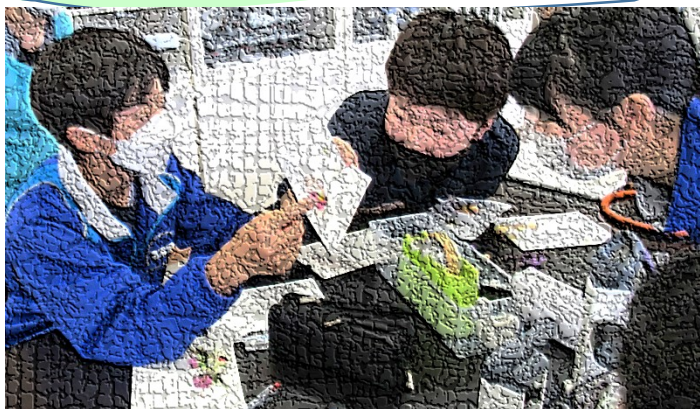


視点2：学年や教科を越えた組織的な授業改善の推進

《取組内容》

互見授業の実施

- ◆ 全員でやってみる。
- ◆ 視点を明確に、生徒の変容に注目して見る実践
- ◆ わかりやすく表現する場面（手立て）を設定した授業の実践



振り返りを活用した授業実践

- ◆ 自分の考えを表現する場の設定
- ◆ 単元を見通した振り返りシートの作成と実践
- ◆ 振り返りを通して、対生徒、対教師へ学びの伝え合い

授業交流会（学校公開）での実践発表（R5. 11. 15）

校内研究会のもち方の工夫

- ◆ 生徒の資質・能力をベースとした視点の明確化
- ◆ 各教科において：「わかりやすく表現する」ことの明確化
- ◆ 学年や教科をこえて：最後まで聞くこと、考えて書くこと、わかりやすく伝えることができるように手立てを組む。

《提言》

「生徒」を主語に、生徒の変容が見られる授業を作ろう。
生徒自身が、学びの過程や有用感を自覚できる振り返りを目指そう。



視点3：調査結果の積極的活用

《取組内容》

諸学力調査結果の分析

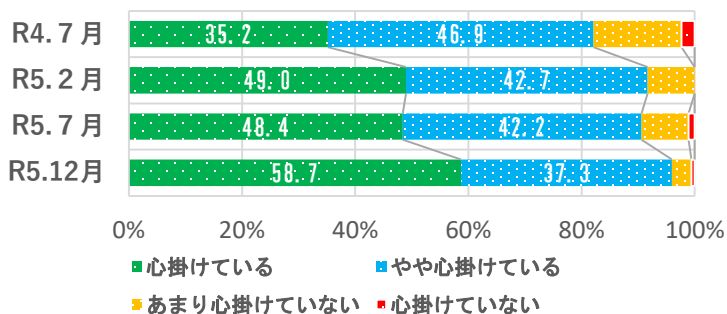
- ◆ 全職員で結果の共有と分析
- ◆ 各教科での補充学習
- ◆ 質問紙の活用（学習と生活との関係に注目）

- 数値の落ち込みは、つまずきを生かした学力向上のチャンス。
- 高い数値は、自信となってさらなる学習意欲の向上に。
- 取組は継続することで大きな成果に。

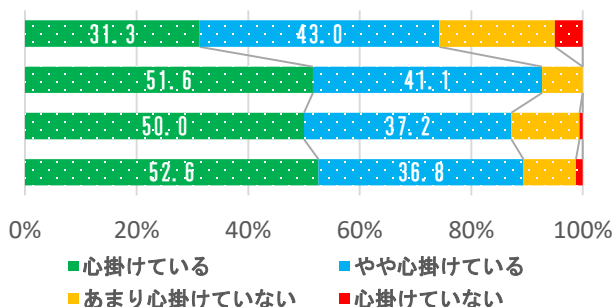
生徒アンケートの継続実施

- ◆ 「よく聞くこと」「考えて書くこと」「分かりやすく伝えること」の意識調査と成長の自己認識を調査
- ◆ アンケートの目的や結果は、生徒とも必ず共有→教師と共に、さらには生徒自ら主体的に資質・能力の向上を志向

「わかりやすく伝える」ことについて



「考えて書くこと」について



《提言》

調査結果（数字）は成果と課題を明らかにする指標の1つ。生徒も教師も成果と課題を共有し、メタ認知能力を高めよう。

